

基盤地図情報作成検査ツール バージョン 6.0.66 更新記録

2011/05/28
有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>
info@geocoach.co.jp

1. 基盤地図情報XML作成

メニュー[基盤地図情報]-[基盤地図情報 XML 作成]で出力する XML の「存在期間_自」の内容を、シェープファイルでも指定できるようにしました。以下、説明書からの抜粋です。

2.1. シェープファイルの属性

地物毎の情報を属性としてシェープファイルに記録しておく必要があります。属性の値を XML ファイルに出力します。属性名が複数ある場合、上側の名称を使ってください。下の名称は基盤地図情報検査変換ツール version1.00 までの名称です。下の名称ではメニュー[基盤地図情報]-[シェープ 論理一貫性検査]で検査できません。上側の名称は、XML ファイルから変換するシェープファイルの名称と同じです。属性名で、カタカナは全角、アルファベットは半角です。

各シェープファイルに共通な属性があります。「型」はシェープファイルの属性の型で「整数」「実数」「文字列」があります。「要素名」は XML ファイルでのデータ項目の名称です。なお、シェープファイルの属性のフィールド長は任意です。

属性名	型	要素名	内容
識別コード DISCODE	文字列	地物 ID と属性 [uuid]の一部	シェープファイルに属性「識別コード」があり、属性値が空白でない場合、その文字列を地物 ID と uuid にセットします。属性「識別コード」がない、あるいは値が空白の場合は、ダイアログで指定された文字列をセットします。 例：「10-00200」
情報レベル MAPLEVEL	文字列	出典地図情報レベル	シェープファイルに属性「情報レベル」があり、属性値が空白でない場合、その文字列を XML の要素「出典地図情報レベル」として出力します。属性「情報レベル」がない、あるいは値が空白の場合は以下の文字列を出力します。 ・整備作業用実測点、標高点：「KJ99」 ・その他：「2500」 (バージョン 1.08 から)
編集フラグ EDITED	整数	編集実施フラグ	属性値が「1」の場合、XML に「編集実施フラグ」の値「1」を出力します。 シェープファイルにこの属性自体がない場合、あるいは属性値が「1」以外の「0」や空白の場合で、元データとの比較でも変更なしと判断される場合「編集実施フラグ」は「0」を出力します。
可視フラグ VISIBLE	整数	可視フラグ	属性値が「0」の場合、XML に「可視フラグ」に「0」を出力します。 シェープファイルにこの属性自体がない場合、あるいは属性値が「0」以外の「1」や空白の場合「可視フラグ」は「1」を出力します。
存在期間自	文字列	存在期間_自	シェープファイルのこの属性があり、空白でない場合、その文字列を XML のタグ「存在期間_自」に出力します。 シェープファイルにこの属性がない場合、あるいは属性値が空白の場合はダイアログで指定された値を出力します。 シェープファイルでの指定はバージョン 6.0.66(2011/05/28)から有効です。
作業番号 WORKNUM	文字列	整備作業番号	シェープファイルにこの属性があれば、その属性値を XML のタグ「整備作業番号」に出力します。属性値が空白の場合、

			<p>その旨のワーニングを表示し、タグは出力しません。個々の地物毎に異なる場合に対応します。</p> <p>シェープファイルにこの属性自体がなければ、変換時のダイアログでの指定に従って出力します。</p> <p>例「H19A0226-S02」</p>
<p>出典メタ SOURCEMETA</p>	文字列	出典メタデータ	<p>シェープファイルにこの属性があれば、その属性値を XML のタグ「出典メタデータ」に出力します。属性値が空白の場合、接続編集で追加された地物として、タグは出力しません。</p> <p>個々の地物毎に異なる場合に対応します。</p> <p>シェープファイルにこの属性自体がなければ、変換時のダイアログでの指定に従って出力します。</p>